

2011.04.24 聖別会

IMMANUEL

インマヌエル
中目黒キリスト教会
聖別会マンスリー



2011年

<ジョン・オズワルト著 『聖』を生きる人々>

第11章「聖い人生を体験していくには」その2

「死んだ」ものを「殺す」(?!)

聖句:

「地上のからだの諸部分、すなわち、不品行、汚れ、・・・そして貪りを殺してしまいなさい。・・・神に選ばれた者、聖なる、愛されている者として、・・・深い同情心、慈愛、謙遜、柔和、寛容を身に着けなさい。」
(コロサイ 3:5、12)

■コロサイ書のメッセージは:

- ・知識(グノーシス主義)に傾くな(2:8)
- ・行いによる救いに戻るな(2:16)
- ・信仰によってキリストと一つになれ(3:1、3)
- ・欲・怒り・誘惑をコントロールせよ(3:5、8-9)
- ・御霊に満たされ、愛を増進せよ(3:12-17)

ここで問題:キリスト者は、既に古い自分に対して死んで(2:20、3:3)、キリストとともに甦っており(3:1)、古い人を脱ぎ捨て、新しい人を着ている(3:9)が、一方において、死ぬように(3:5)、着るように(3:12)命じられている。これは矛盾?

答え:「死んだ」とは、潜在的可能性、「死ぬべき」とは、その可能性の実現(信仰によって実現される。「キリストを受け入れたときに与えられている潜在的可能性の全てを引き出しなさい。・・・恵を受け止め、信仰を働かせなさい。・・・既にあなたに用意されているものを、信仰によって自分のものとしなさい。」

■エペソ書にも同じパターンがある

- ・キリスト者は、聖く傷なき者となり（1:4）神の栄光をほめたたえるため（1:12）に選ばれている。
- ・彼は、キリストとともに生かされ（2:5-6）、神の形に造られ（4:24）、古い自分を脱ぎ捨て、新しい人を着ている（4:22-24）
- ・一方において、神の恵みを十全に経験するように祈られている（3:16-20）

ここでも潜在的可能性を信仰によって実現すべきことが命じられている。「古い人を脱ぎ捨てたのだから、今信仰でそれを実践しなさい。もう死んでいるのだから、今死になさい。すでに生きているのだから、今生きなさい。」

回心時に持つべき信仰と聖化のために持つべき信仰は共通だが、その適用すべき分野が異なる。後者は、神に逆らう肉的性格（自己中心）に向き合う（ローマ7章）。それ気付くきっかけは様々だが、必要が分かったら、そこに信仰を当てはめよ。

“Holiness unto the Lord” is our watchword and song;
“Holiness unto the Lord” as we’ re marching along.
Sing it, shout it, loud and long;
“Holiness unto the Lord” now and forever.